(明治三十七年二月二十日 第三種郵便物認可) 昭和十年九月五日 磐城新聞 (木曜日) 第四千四百十九號 (一)

夕刊 磐城新聞 九月四日發行 (日曜祭日翌日休刊)

随筆 磐城風物横顔 エス・オー生

◇白い山百合

汽車の窓から見る崖や、丘の雜草に混る白百合の花の點在はこの地方風物の特色だ。尤も福島、宮城、山形三縣は至る處此の花が多いとのことだが、見聞の狹い自分には特にこの地方が多いやうに思はれる

自分の郷里等には桔梗や石竹の花にまじつて百合の花が相當見受けられはするが、それは紅い山百合であつて、白いものは滅多に見當らない。まれに白いものがあつても鐵砲百合と稱する種類のものでこの邊のものとは異つた種類のものだ

香氣も強いし、姿も惡くないこの白い山百合が餘りに到る處に生えてゐる爲か殆ど珍重されずに單に山野の名もない雜草扱ひされてゐて庭園の草花の間に見受けられる事は極めてまれだ。

これに就てこの間ある本を讀んでゐてふと此の白百合の事に思ひ當つた。その本には歐化思想華やかなりしかの明治初年の鹿鳴館時代のことが書いてあつて其の中にシャンパン酒の事に言及したところがあつた

當時シャンパンの原料は香氣の強い山百合が使はれたので一時は日本からも頗る多量に山百合の球根が海外殊にフランス邊に輸出されたさうだが、間もなくフランスで百合に代る而も極めてやすい原料が發見されてバッタリ日本からの輸出は杜絶してしまつた。その爲めに各地で山百合を多數栽培した農民が續々倒産したといふ話しだ

經濟的事情殊に海外の經濟事情等には全くうとい農民達が御先大事に守つてゐた祖先傳來に田畑まで賣つて營々栽培した百合畠が一朝にして三文にもならぬ雜草畠と同等の價値にまで低落したことを思ふ時何時の世にも變らぬ純朴にして無智な農民達を憐れまずにはゐられない

白い山百合!それはきつとその時代の遺物ではなからうか、きつとさうであると自分は信じる

◎方言漫話◎

『盜炭者が痩馬をおいて逃げました』

『それやしめた。捨て賣りしたつて損はない。どんな馬だか早速見にゆかう』

斯ういう問答は實際あつた話。蓋し痩馬にあらずして新炭を背負ふ背負ひ梯子であり。捨て賣りにしたつて損はない、見にゆかうで警戒氏何が何やらさつぱりわからす目を白黑したことも事實だ、痩馬エコー// 背負ひ梯子とはお釋迦さまでも氣がつかぬ自分にとつては全く超意外のことだつたのだ

これと同じやうな話しがある

『○○氏が湯本驛で落ちた!』と聞いたので某氏は話半ばに『怪我はどうか、命は大丈夫か』と言つて上衣を引つかけて大急ぎで飛び出さうとしたといふ話。落ちたは墜落にあらずして降車であることは讀者承知の通りだが、方言知らぬ都人士に聞かせたら矢張り怪我はどうか位のことを言ふのは必定だ

メンゴイ或はメゴイと言ふ言葉があるがこれなどは誤解されて全く逆の意味にとられると大迷惑をすることがあるかも知れない。然しこれは愛しといふ古語から出たものではあることは確で一寸腦を働かせれば可愛いとか綺麗といふ意味に取られないことはない

大抵の方言が今ではわかるやうになりそれだけ從業員諸君と馴染も深くなつたことをつくづく考へる次第だ (了)

共鳴

宇津木三四郎

二

畑の中でチョン〳〵ハサミを動かしてゐる彼の姿を見る事もあれば、牧場の後の小山でねそべつて書物をよんでゐる彼をみかける事もある

だが彼の口をひらいて笑ひかけてゐるのを見る事は今では一度もなかつたと言ふ

五人の兄妹と、村の尊敬の的になつてゐる兩親、七人の家族はいつも朗らかに眞面目に丘の舊家に育くまれてきた。しかし、長男の讓次は大學を出ると共に洋行し、長女も又嫁ぎ、現在家にのこるものは忠長と正子、末の俊子と三人である

正子と俊子は同じ女學校へ通つてゐるが、二人も又めい〳〵に異つた性格をしてゐる

初秋!と言つても、遠い雲の中にはいく分まだ雷氣をふくんでゐる日曜の午後、砂きびの畑の方から正子らしい女の聲がきこえてくる

『どこへ行つたのか知らん、いやな兄さん、牧場の方よきつと』

『そうね、行つて見ませうか』

ちがつた女の聲もきこえてくる

話の樣子からすると大分前から忠長の在りかをさがしてゐる樣である

『兄さん、兄さーん』

正子は小きざみに歩みながらしきりに忠長をよんでゐる

『あッゐてよ、あんな所にさつきから呼んでゐるのにきこえないのか知ら』

牧場の柵の側の草にねころんで、ひざを組み頭を兩手にはさみ、青い空をジッと見つめてゐる忠長である。まるで人の氣はゐを知らぬ樣に身動もしない

正子は走つて行つた。乾き切つてゐる草がその度に白い正子の靴の下でサッ〳〵と音をたてる

磐城歌壇推薦歌

新妻久滿男選

『芍藥』 加藤純弘

◎朝露に栗濡れすがしき芍藥の大き蕾は赤くほぐれつ

◎舟歸る伊佐沼岸の夕明り青葦の間にたてる群鷺

○狹山茶の甘き香りを含みつゝ歌つくらむと思ふ朝かも

○閑古鳥しば啼く溪のそこひより仰ぐ峯間に朝霧たてり

○霧深き溪のそこひに堰きかゝる眞水冷たくうまき味かも

○まなかひはたゞに青かりこの溪のとよみが上に啼く閑古鳥

○風强み夕立祭らし山峽にこゝだも騷ぐ青き茂むら

すすき 秋志惰

ツンツン月さん
ひようげもの
スッス芒は
切れように
こんこんころげて
あそんでる
スッス芒は
切れよもの

カサカサ風さん
ひようげもの
スッス芒は
切れように
ササササ頭
なでている
スッス芒は
切れよもの

潮聲硯靜抄帳

天野雨山

冷用溜のいろしづかなる夜涼かな

冷しものたゝへる夜々の蚊遣かな

蒸しタオル羽蟻きて夜の更けにけり

丹羽翠雨

照り雲のうつらふ水に合歡の花

花合歡の一と風にゐて釣垂るゝ

大岩にとばしる水や合歡の花

9月5日

△最上徳内歿す(天保七)△日露講和條約調印(明治三八)△嚴谷小波逝く△内郷鬼ケ澤貯水池に同村根本彪雄の溺死体(昭和八)

その日〳〵

○

朝あけの雨のやみ間はキイ〳〵と鳴く梢高くもずのけたゝましい聲を聞いた——

小説

誰が殺したか (114)

今野賢三作 龍造寺勝衛画

第二の殺人 (八十四)

二人は連れだつて往來へ出てくると正常はさきにたつて、ちかくの『入金』といふ大きな待合の門をくゞつた

『旦那こんなところへはいつてようがすかい』

屑は不安さうに聞いた

『なあに、かまはんさ、僕にまかしておきたまへ』

『ヘイ、どうも有難うがす』

立派な座敷へはいつて腰をおちつけてから

『ねえ、旦那不思議なもんですなあ、あんたが峰山の若旦那でそれをこのまた、おれがたすけるなんて全く不思議な縁ですよ』

『どうしてだね?』

『とにかくね、今夜おれも死なうつてかんがへたのもあんたのうちのことからですよ』

『それはどういふ譯だね』

『あの伯爵樣の所で、お嬢さまの腕時計がなくなつて

ことですつかり嫌疑をかけられちやつたんで……』

『なるほどね、それはすまなかつたね』

『といふと、腕時計の犯人は、わかつたでせうか』

『なあに、あれは妹から僕のところへ死ぬ前に形見にくれたんだよ』

『なるほどね!それを警視廳のやつらもわからねゝやおれを前科があるからつて嫌疑者にしやがつて』

『それからどうしたんだね』

『ところが旦那!かうなれあ、何もかもぶちまけていひますがねどつちにしたつて、もうかうなれあ死ぬかふんづかまるか二つのうちの一つですからね』

『と、いふわけは』

『それがですよ、拘留されたおかげで、カ、アや子供が可哀想に喰へなくなつたつてわけでせう癪にさわるもんだから、ちよつとその……つまり、なんですね眞似て見たんでさあ』

『何を眞似て見たんだね』

『説教强盗つてものをね』

『とんでもないものを眞似たんだね』

正常も苦笑した

『それがお前さん、どこへ入つたと思はれるんですかい』

『さあ……』

『旦那!ほんとにすみませんでしたね、あんたの、お父さんの處へ入つたわけですよ』

『ひどいことをやつたもんだね、どういふ譯で僕の親父の處をねらつたんだね』

『どういふわけつて、つまり、俺が嫌疑をうけたのは峰山家のおかげだと思つて憎くなつたもんですからね』

さすがに屑屋も頭を掻いた

『成程……それからどうしたのかね』

『まあ、それから刑事に追はれて、かうして逃て歩いてゐるんですがね』

『それで死ぬ氣になつたのかね、それぢや、説教强盗にも、似合んぢやないか』

『旦那!死ぬ氣になつたつていいのは、たゞ追ひつめられたつていふわけぢやあねゝんで……』

それから、屑屋は工場で首切られたときからのことを話して

『ねえ、旦那!俺はもう、此の世の中がつまらなくなつたつてわけですよ、俺達の樣な下のものは、いくらまじめに働いても、喰ふか喰はすつていふ譯で、それにお前さん、金のあるやつらや偉い人間は、皆惡い事をしやがつて!そしてみんな、贅澤をしたりしてゐやがる!こんなつまらない世の中は、ありやしませんや!』

廣告

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角
特約店 桑原商店
『取次販賣needs應ズ』

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

入院隨意(自炊の便あり)
外科 X光線 專門
平南町
上田醫院
病室完備
(電話一二九)

國はニッポン・魚は凍魚
日本水産特約
御小賣 平製氷
會社 電二二八・三二六番
鯛 エビ 白魚 イカ
銀鯛 甘鯛 芝エビ 貝燒
平目 目拔 鮭鱒 其他
ヒノマル凍魚
平代理店 四丁目 ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ速迅ニ致マス。

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物金物問屋
久 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり

内臓外科一般(入院隨意)
外科花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 醫學士 日本齒科 中野惠次
醫學士 日本齒科 西川誠
平町田町(松月堂向と) 電話五〇九番

夜間診療
胃腸性病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

丹野齒科醫院
丹野淳夫
平驛前 電話三八五番

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番
(入院應需)

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取扱、繪ト鑑定、糸ト復致シマス
關内藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
平町田町(電六九一)
山内醫院
醫學士 山内亨吉
病室完備 自炊ノ便アリ

漸く最盛季に入つて 繭都四倉に活氣溢る
最高四十五圓三十錢
雨にも怯まず昨日の出廻り千百貫

俄然新記録

一時落調を示したが上向きを辿つてゐた四倉繭市場昨三日の取引は愈々出廻最盛季に入つて朝來の降雨にも拘らず出荷千百貫相場は俄然昂騰し今春繭御祝儀相場を突破して開場以來の最高記録四十五圓三十錢にせり上り養蠶家は何れもホク／＼顔である

高四五、三〇錢　安三五、〇〇錢　馴四一、三〇錢
掛目三五

尚去月二十七日の開場以來昨三日迄の取引は出廻總計六千五十一貫百八十匁、價額二萬三千九百九十四圓七錢

大輪 徑六寸二分
記録賞は植村氏に
入山朝顔品評會成績

地方朝顔界中最も多數の同好者を擁し年々新機軸を出しつゝ盛夏の朝毎見るも清々しい點景を見せて來た入山炭鑛の第六回朝顔品評會は

本年は小鉢栽培中並に本鉢移植後に於ては雨天少く且つ天氣に惠まれ上出來を豫想されたが開花頃から氣温低下し朝夕凉しくなつた爲めか遂に豫想通りの作品は出なかつたが尚は出品人員一一一人出品鉢數一、五一三鉢

出品花成績

一等―五寸八分以上五五鉢、二等―五寸三分以上五一九鉢、三等―四寸八分以上六一二鉢、四等―四寸三分以上一五一鉢、等下―四寸三分以下二七鉢、參考花―一四九鉢

で記録賞は花銘新古代花徑六寸二分の植村淳氏の手に歸した

磐炭水泳陣
大會參加に猛練習

神宮水上競技大會本縣豫選は來る八日縣体育協會主催の下に福島高商プールに開催されるが磐炭青年團から左記メンバーが出場することになり目下猛練習中

(百米自由型)森昌雄　佐藤判次　(四百米同)庄司猛夫　佐藤登　(三百米混合繼泳)佐藤　庄司　森　(二百米平泳)矢内春治　(千五百米同)庄司猛夫　(二百米繼泳)村上　佐藤　庄司　森

營林署野球
十五日磐中球場で

濟通り五營林署(平、植田浪江、富岡、原の町)對抗軟式野球リーグ戰は十五日磐中グラウンドに擧行する

。。。。。平青選手決定　郡聯合青年團第十二回体育大會は既報の如く來る八日(日)磐中グラウンドに開催されるが平町青年團から出場競技選手は既報の如く柔道、相撲は左の如く決定、劍道は未定

(柔道)白井晃　阿部兼千代　(相撲)伊藤徳雄

土壁が崩れて 消防手傷つく
今曉豊間の火事場で

今四日午前一時頃豊間村大字沼の内海產物商大山喜助方から發火、居宅を半燒して鎭火した原因提灯の置忘れ、損害百圓で濟んだが逸早く現場に駈けつけ消火に努めた同村大字沼の内字新街消防手大谷利一(三二)氏は土壁が倒れて右上眼瞼に全治二週間の裂傷を負ひ平署では公傷として警察部に報告、近く治療代を受ける筈

天下の名射手臨席 平町大弓場開き
古式に則り來日曜擧行

磐城弓道場は地方斯道の最高權威確立を目指し平町藤田、柏原氏等が工費千四百圓を投じ弓場を元平弓道會弓場跡に建設工事中愈々竣工したので來る八日(日)午前八時より渡邊範士(日立礦山庶務課長)その他數氏により古式に則つた矢場開きを行ひ又相、双、郡山方面からも弓道士參集して競射大會を開くことになり地方射手の出場を望んでゐる

選擧區變更
郡下に於ける選擧投票區は此程左の如く一部變更された

江名町　第一區(字折戶を除く大字江名)第二區(第一區を除く全部)
三坂澤渡組合村　第一區澤渡村　第二區三坂村

田村郡農事 郡下視察團
乘込む一行百餘名

田村郡農民講座生百餘名は來る十二、三の兩日左記の如く石城地方の視察を行ふ

△九月十二日　內郷村磐城炭鑛　渡邊村澤田正幸氏方　植田村養鷄組合　佐藤農事實行組合　錦村錦村農會勸業施設　勿來町舊關趾太平洋眺　平潟町八幡神社參拜

△九月十三日　泉村志賀澤之助方　小名濱商港水產試驗場　神谷村縣農事試驗場石城分場　平町郡農會平町公園

杉原氏受諾
小川村長就任

上下小川村組合の後任村長に推された元四倉町長杉原新吾氏は種々の關係で決定を見なかつたが此程漸く九月一日から正式就任

選擧肅正を諭して 特に罰金刑の判決
富岡の違反事件段落

昨報―去月二十二日執行の双葉郡富岡町々議戰に際し違反摘發された同町毛萱町議佐藤熊藏(五五)及び同氏の運動員石井長藏(四四)の第二回公判は今四日午前十時から平區で中島判事係り白水檢事關與開廷、熊藏に三月長藏に二月の懲役刑を求刑したに對し判事は最近叫ばれてゐる選肅に關し諄々訓旨した上熊藏に二百五十圓長藏に百五十圓の罰金を言渡した

連座の七名
何れも罰金追徵金

前記―選擧違反事件に關し一票二圓の買收に應じ又はその下請負をなした七名は左記の如く夫々略式命令を以て處分された

罰金百二十圓―富岡町下郡山農若松伊三郎(五五)　同七十圓追徵金五圓―同農豬狩久美(五三)　同七十圓追徵金二圓―佛濱農石井松治(三八)　同三十圓追徵金二圓―上郡山古物商石井義春(二九)　同―農石井捨吉(七三)　同―農後藤瑞三(四四)　同二十圓―下郡山農吉田寅藏(五六)

。。。。。少年團指導實習　縣主催少年團指導者實修は來る十二日より六日間聯盟理事長三島通陽氏を講師として開催されるが平からは團長篠山第一校長出席の豫定

。。。。。國調委員追加　平町の國勢調查委員は既報の如く任命されたが、味岡子之松氏が此程追加された

郷土の未發史跡を探る
鮎泳ぐ鮫川河畔にて(歸省餘錄)
勿來生

3

其の創築、占居者は固より不詳であるが、附近の地勢並に墟址の形狀などから察すると、餘り古いものではなく、恐らくは南北朝前後の壘城でなからうか。近世末以來、此の南端丘址を專ら菊多國造墟と呼ぶのとは關係しない城館、壘砦の一種であらう。兎に角、舊い菊多郡內舊址中、此れを以て最大の遺蹟たるには恥ぢない。然るに斯のものは予にとつても始めての見聞で詰り燈臺下暗しの譬に適はず逸してゐたのであるが、故鍋田、神林、大須賀諸氏の郡內城館志は勿論、近代の石城郡誌、現在の勿來町勢一班にも之を載せてゐな

前述農姉の語る所を、そのまゝ記すと、キヲカノタテとするが、七俗古傳の大高城とは、思ふに此處を差して言つたのでなからうか菊多國造址の跡を今專ら廳時屋敷(鍋田氏は長者屋敷と)と唱へるが、此れは城館でなく其の謂はゆる當時の地方政廳であるから、軍備上の趣とは異にすること無論だ。されば鄕土傳說の大高城こそは、予が此の日始めて見出した大墟址でなからうか。(以上、當日正午前後、窪田木內鐵次郎氏宅に憩ひて)

三、菊多國造墟、窪田城跡、國魂明神、窪田陣屋跡

假名大高城趾を降り、爵蒼たる杉林の崖を滑り走つて、水車小屋の隣家裏庭に拔け、窪田から江栗方面に通ずる村道に出た。是より南に數町を步き、右側に窪田小字道山に至る指導標の立つ所から曲つて行くこと凡そ二町の點より、左の小道(安養寺並に片岸に通ずる(菊の道)に入つて突き詰めた高丘が、鍋田三善の發見に係るてふ菊多國造墟跡、一名を長者屋敷、或は應時屋敷と云ひ、謂はゆる王朝時代制置の菊多國、郡の地方政廳跡と云ふ。(鍋田氏の磐城志、大須賀筠軒の磐城史料等參考)

時間は正午に垂んとし、烈日は史索者にジリジリと燒きつけ、汗はますます全身に流れるばかりだ。故に予は凉風を食らんとし、最も小高い所を撰んで佇立し眺鏡を掃除したあとで少時(前方を眺觀した

郡下小學教員異動
校長級は無風地帶
昨三日發表さる

師範卒業短期現役兵の除隊に伴ふ小學校教員の異動は昨三日發表された、本郡關係左の如く校長級には一名もない

新	舊	
四倉	入山	佐藤ユキ
神谷	樋賀	鈴木兼
草野	石川須釜	加澤貞衛
山田	上遠野	七島幸助
上遠野	白河第一	宗形敏清
小名濱	白河第二	竹內一義
白河第一	山田	大竹光治
石川須釜	草野	古川周二郎
安達平石	大浦	遠藤スイ
耶麻岩月	磐崎尋高	酒井誠一

(准代新轉任)

泉	勿來	山崎末代
勿來	內郷第三	樫村一男
小川	神谷	山岡利雄
磐崎尋高	平第三	山下卓
石川小鹽江	植田	根本利正

(訓導退休職)

渡邊	水野喜一
四倉	油井利惠

(准代退休職)

內郷第三	小澤安治
赤井第一	近藤信行
田入	蛭田秀實

。。。。。兩校長陞叙　湯本校長篠原保治、草野校長五十嵐新平の兩氏は此程高等官七等待遇に陞叙された

共謀の兇行と斷じて 一審の死刑を支持す
昨日獵奇のバス屋殺し事件公判

加被害者たる登場人物が何れも石城郡關係な丈け地方一般からも多大の關心裡に

昨年五月廿六日東京地方裁判所で死刑の判決をうけた例の原宿バス屋殺し後藤もと(五八)同人情夫長谷川繁(三八)兩名の殺人事件控訴審は三日の公判で事實並に證據調べを終つて檢事の論告に入り檢事は當時の狀況から捜査經過などを詳論した後

結局被害者後藤忠弘を殺したのはもと、繁共力による兇行であると斷定、有罪を論告一審判決の至當を支持し一時間四十分にわたる長論告半ばで正午一たん休憩午後も續行し前審通り兩名に死刑を求刑した

街の探偵に古疵
飲逃げ押への殊勳から
舊惡が暴れて留置場へ

平町三丁目一川魚商長谷川儀松(二九)は昨三日夜九時頃同町南町カフエー赤玉事永山キン方で飲酒中、隣席で呑んでゐた南町四一瓦製造業古川乘松方職人大塚寅藏が飲み逃げせんとした處をひつとらへ二三回毆打したまではよかつたが間もなく大塚の參考人として平署に呼び出され取調べられた結果今度は同人もまた同家で只飲した事がバレかへつて署員からサンザンどやされ大塚より先に留置場入り

。。只飲　內郷村綴カフエー業細谷正治(三元)は昨三日夜平町カフエー天地事高橋武方で四圓七十錢の只飲を働き平署に突き出された

屋根を修理せぬ 家主の指に噛付く
惡天候から傷害沙汰

平町才槌小路三三大工職增子税也(四五)は從來雨漏りする居宅の修繕方を再三家主である棟續きの差入業本部喜代松(三七)方へ交渉したが種々の關係から容れられず不滿を抱いてゐたが兩三日來の降雨でまたひどい目に遭つてゐるので昨三日夜七時頃最後の交渉に行つたが依然容れられず口論の末カッとなつて喜代松の左食指に噛りつき全治二週間の傷害を與へ平署に檢擧された

艶罪黒白(えんざいくろべちや)

◇平藝妓の中堅處が最近病氣縮制の意味で『お客の歡心を得、若は浮氣をさせぬ目的を以て有り物だからとてこつそり興應接休したる時』◇は松月一圓に處す――と云ふ申し合せなした爲一大センセイションを捲き起してゐるそうだが◇今度は炭鑛邊のお客の方で『左の各號に揭ぐる費用は之を玉代の費用に非ざるものと見なす』つて云ふのを決めたそうだそれによると　一、客が乘用する爲に要したる費用　二、朝歸りの時に於て前夜の殘務整理の爲に要したる費用(後略)だつてテヘッ◇或る客から『今度白岩へ連れてつて遊らう』と云はれた最近盛釜から來て久本から出た久千代。『そこになにあるの?』と可愛いゝ小くびをかしげてたづれた處『ゝゝゝさ』と云はれてハツト上氣。十七にもなつて之の予案外ッブだよつ。

○……○……○

遺された物騒な品 鮎密漁の魂膽か
大利で導火線發見

箕輪村大利地內でダイナマイト二本を使用し鮎類の密漁を企てたものあるを一昨二日夜發覺、平署では直に未使用導火線其他を押收犯人捜査の活動を開始した

犯行は去る舊盆十六日前後に二名が共謀魚類約三百匁を密漁した形跡あり弗々秋口になつて此種密漁者が横行するので同署では監視の目を怠らない

。。。。。夏季課題成績展　平第二校では明五日校內の夏季課題成績展覽會を開き各組十名宛の成績品選出展覽、一般にも公開すると

。。。。。渡邊村農事講演　渡邊村農會主催の農事講演會は五日午前十時杉小屋實組事務所で開き郡駐在吉成技手の二毛作講演をきく

。。。。。正誤　昨紙『天候關係で氷屋の紛紜』記事中、平町材木町船山勝見が告訴の理由は『盛夏を過ぎフルーツケーキ機械を使はなくなつた時は四割引で引取る約束を履行せぬから』の誤り

平町の晝火事
火元は油屋で全町を驚殺
幸に延燒せず鎭火

今四日午後三時二十分平町一丁目關彰商店より出火、火元が火事には最も怖るべき油屋であり黑煙蒙々として天に沖し俄然全町民を驚殺し到底延燒は免れ難いものと思はれたが幸に風無く消防必死の努力により四時鎭火した、原因煙草の吸殼らしく取調中

舊八月八日
木曜　甲申　先負　建　奎宿
新九月五日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　自己の欲する儘に行動すれば蹉跌續々起る▲二黑　釣り上げし魚も水際にて逃げらるゝ如き日▲三碧　金錢上の行違ひを生ずる事あり定業は榮ふ▲四綠　謀るくと思ひの外謀らるゝ事あり病注意▲五黃　駈引意の如くならず利得を見逃す如き凶日▲六白　目的遂行の緒に就くべし一層の奮勵を要す▲七赤　運氣に不足なけれど進退を誤れば凶に傾く▲八白　熱情おとろへて前途の展開に妨あり爭論注意▲九紫　落目に入り込まんとする危險日短慮を戒しむ

五日　(小名濱測候所調查)
日出　五、一一　月出前一一、四八
日沒　六、〇一　月沒後　九、三三
滿潮前八、四〇　後七、一五　干潮前一、五五　後一、〇五

待望の天下堂―

愈々近日開店
女店員數名至急募集
尋高卒以上ノモノ十八才ヨリ二十二、三才迄 (住込通勤自由)
給料　十五圓 (事務服支給)
本人直筆ノ履歷書ヲ要ス
申込締切　九月七日迄
申込所　平町三丁目　天地堂　電五八九
平町四丁目蓄音器專門店　天下堂

內外
建築材
建具材
入 阿部材木店
磐城國平町(公園下)
阿部好利 改メ(章)
電話四九四番

親切 迅速 安全第一
鐵道、貨物一般
小口取扱　三清宮運送店　電話二六七番
貨物自動車運輸

毎度御引立を蒙り御厚情深謝致します、今回當店に於て貨物自動車部を新設し金成自動車部を專屬として三十五年式新車を以て貨物一般の運輸に從事致しましたから倍舊の御用命と御利用の程を偏へに御願申上ます

自動車の御用は電話二六七番へ願ひます
金成自動車部